



1

バスと赤ちゃん

満員のバスの中で泣き叫ぶ赤ちゃん。
母親は、乗客は、運転手は……。さけ

とうきよう

東京にいた、今から十六年前の頃のことです。ころ

くず

私は体調を崩し、週二回、中野坂上の病院に

*1 なかのさかうえ

通院していました。

*1 中野坂上

東京都中野区の地名。

その日は今にも雪が降り出しそうな空で、とても寒い日でした。



多様性



キャリア



10-1

昼近くなつて、病院の診察を終えバス停からいつものバスに乗りました。

バスは座^{すわ}る席はなく、私は前方の乗降口の反対側に立っていました。車内は
暖房が効いて、外の寒さを忘れるほどでした。

間もなくバスは東京医科大学前に着き、そこでは多分病院からの帰りで

しよう、どつと多くの人が乗り、あつという間に満員になってしまいました。

立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、先程の心地よさは一度になくなってしまいました。
した。

バスが静かに走り出したとき、後方から赤ちゃんの火のついたような泣き声
が聞こえました。

私には、人で見えませんでした。ぎゅうぎゅう詰め^づのバスと、人の熱気と
暖房とで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく、泣く以外に方法がなかったのだ、
と思えました。

泣き叫^{さけ}ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは新^{しん}宿^{じゅく}に向かい走っていました。